

令和元年度 第2回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会 議事録概要

会議名称	第2回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会
開催場所	加古川市立青少年女性センター4階 大会議室
開催日時	令和元年9月25日(水) 19時00分～20時25分
出席者	委員：浅野良一、住友剛、曾我智史、菱田準子、吉田圭吾 事務局：高井正人、吉田秀司、藤崎考雄、山本照久、杉本達之、神吉直哉 境眞稔、今津幸央、松浦幹雄、長谷中史敏、堀之内健志、宝来美由紀 岡本ひとみ、宮内義英、山下純一、大西泰樹、加藤敦士
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 令和元年度1学期いじめ防止対策の取組状況に係る報告 (2) 令和元年度1学期各学校におけるいじめ防止対策の取組状況に係る報告 (3) その他 3 令和元年度 第3回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会の開催について 4 閉会
配布資料	1 第2回 加古川市いじめ防止対策評価検証委員会 次第 2 いじめ見逃し“ゼロ”を目指した取組についての報告・・・・・・・・資料1① 3 いじめ防止対策の“見える化”についての報告・・・・・・・・資料1② 4 自殺予防教育の推進についての報告・・・・・・・・資料1③ 5 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査から ・・・・・・・・資料1④ 6 スクールサポートチームの活動状況について・・・・・・・・資料1⑤ 7 いじめ防止対策取組状況自己点検シートまとめ・・・・・・・・資料2① 8 教育相談実施状況まとめ・・・・・・・・資料2② 9 学校生活に関するアンケート(アセス)の結果と取組状況について・・資料2③
傍聴者	9人(内、報道関係者2名)

会議要旨（発言者、発言内容、審議経過等）

<p>(委員長)</p>	<p>1 開会 いじめを防止するという目的に向かって、慣れることなく厳しい指摘をし、緊張感を持って進めていきたい。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>2 議事 (1) 令和元年度1学期いじめ防止対策の取組状況に係る報告 (事務局説明)</p>
<p>(委員長)</p>	<p>事務局からの報告について、各委員からご意見を頂きたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>生徒会・児童会代表者ミーティングといじめ防止市民フォーラムでは、児童・生徒から積極的な意見があった。今後はその成果を学校に戻って生かすことが大切である。また、児童・生徒の話し合いに教職員も加わって議論することも考えていただきたい。合わせて、市政だよりなどを使ってこの取組を外へ発信することも大切である。自殺予防教育については、重たいテーマに先生方が必死で取り組んでおられることは評価できる。学校生活適応研修については、2学期以降の実践にどのようなにつながったのか、効果についてアンケートを実施するなど、検証することが大切である。</p>
<p>(委員)</p>	<p>学校生活適応研修の中に不登校事案を前提にどのような対処を学校がすべきかといった内容を研修に入れてもよいのではないか。また、いじめを認知した後にどのような対応をしてきたのか、具体例を共有する機会を研修の内容に盛り込んでもよいのではないか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>心の絆プロジェクトにおいて、実際の小学生、中学生のリアルな意見を交わせる場を持つことは重要である。ここから、最終的には自分たちの学校に帰って、クラスの中で、真面目に意見を交わせることができるか、いじめている側も率直に自分の思いが言えるなど、お互いに理解し合える場を持てるように目指していただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>いじめを受けた子どもの傷の深さに寄り添った対応を心掛けてほしい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>子ども達自身が支え合って、乗り越えていけるような支援が必要である。わかっているが言えないではなく、なぜ言えないのか躰きを発見し、どう対応していけばいいのか、どんなふうに成長させていけばいいのかを考えてもらいたい。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>非常に熱心に取り組んでおられるという評価の一方、まだまだ課題はある。子どもたち同士、保護者同士、いじめを発見した後の対応について、こういうやり方でするんだという方法論を先生方に伝えるなど、教育的なしこりがないような形で解決し、当事者の成長に役立つ取組に期待したい。</p>

	<p>(2) 令和元年度1学期各学校におけるいじめ防止対策の取組状況に係る報告</p> <p>〈事務局説明〉</p>
(委員長)	事務局からの報告について、各委員からご意見を頂きたい。
(委員)	ピア・サポートの定着など、学校としてもいろいろと協力しながら子どもたちと共に取り組んでいると感じた。
(委員)	アセスの要支援レベルの児童生徒への対応だけでなく、非侵害的関係の値の低い児童生徒を把握して、時期ごとに分析する等、どのように対応するのかを検討する必要がある。
(委員)	アセスの結果をもとに、支援が必要な子どもをクラスの子どもがどう支えるのか、周りの子の在り方、クラスの在り方を指導しつつ、子ども同士の支え合いができるようにしていくことが大切である。
(委員)	学校の特徴ある取組や実践について、また、アセスの結果などを用いてクラスの中で子どもたち同士がサポートし合える取組などについて、教職員の資質向上に関する研修の中に位置づけ、学びを交流し合う機会の提供について考えていただきたい。
(委員長)	各委員からは概ね各学校がよく取り組んでいるという評価であったと捉えられるが、各委員からのアドバイスを今後も取り入れて取り組んでいただきたい。
(委員長)	<p>3 令和元年度 第3回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会の開催について</p> <p>第3回委員会では、2学期の取組状況について評価検証をする。</p> <p>第3回委員会は令和2年2月19日(水) 19:00から開催する。</p>
(委員長)	4 閉会